

授業テーマ

SNSを通じた出会いに関する動画を視聴し、SNSで知り合った人を信じてしまうSNSの特性について考えることを通して、SNSを利用する際に気をつけることについて考えを深める授業

1 主題名 SNSを通じた出会いの危険性 【A-(1) 自主、自律、自由と責任】

2 教材名 動画教材 SNSを通じた出会いの危険性(文部科学省 情報化社会の新たな問題を考えるための教材<児童生徒向けの動画教材>より)

3 主題設定の理由について

(1) 生徒について

(略)

(2) ねらいとする価値について

自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが道徳の基本である。自らの規範意識を高め、自らを律することができなければならない。これはインターネットにおいても現実世界においても同様である。自ら考え、判断し、自分の自由な意志に基づいて決定しそれに責任をもつことが必要である。このような経験を積み重ねて、失敗を含めて結果を受けとめられるようになる。

本指導内容は、文部科学省作成「情報モラル指導モデルカリキュラム 3.安全への知恵」に書かれている目標のうち「d4-1:安全性の面から、情報社会の特性を理解する」「d4-2:トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る」「e4-1:情報の信頼性を吟味できる」「e4-2:自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる」にあたる。

(3) 教材について

動画教材「SNSを通じた出会いの危険性【教材15】ネット被害」は、中学1年生のひかるさんが、SNSで知り合った大学生のりょうたさんと実際に会い、危険に遭遇するまでのシーンが収録されている。りょうたさんとコーヒーショップで実際に会い、楽しい時間を過ごしたひかるさん。すっかり相手を信用し、今度はカラオケで会おうという話になる。ひかるさんの立場や自分の立場で会いに行くか行かないかを考えることができ、自主的に判断する意味を考えることができる教材である。SNS上で見知らぬ人とつながってしまう危険性や、そうならないための対処法を話し合うことを通して、自分の判断やその責任について見つめることができる教材である。

(4) 指導について

生徒にとってSNSは、生活に欠かせないツールの1つとなっている。SNSで知らない人とつながることで生じる危険を予測し、トラブルや被害に遭わないようなSNSの使い方を身につけることが必要である。

本時では、動画教材「SNSを通じた出会いの危険性【教材15】ネット被害」を視聴し、中学1年生のひかるさんがSNS上で知り合った人と会うことで生じる危険について考えさせる。展開では、ひかるさんや自分の立場でSNSを通じて知り合った人に会いに行くかどうかを問い、全体で話し合う。その後、生徒対象のアンケート結果を提示し、自分たちのSNS利用について主人公と自分を重ね合わせながら考え、話し合うことで、SNS上で見知らぬ相手を信用してしまう人間の弱さにも気付かせたい。終末では、話し合いを通して考えた「責任をもった判断」について、自己を見つめることができるようにしたい。

4 研究内容との関連

(2) 質の高い多様な指導方法への取組について

視点1：①課題意識を持たせる短時間での導入
 視点2：③話し合いと発表の場の工夫

「手立て」

- ① SNS を通じた出会いに関する動画を視聴し、主人公と自分を重ね合わせながら、SNS 上で知り合った人に会いに「行く」か「行かない」かについて考えさせる。
- ③ 事前に行った生徒アンケートの結果を提示し、ひかるさんの事例や他の生徒の経験などを参考に話し合う。

5 指導過程

ねらい：主人公の SNS 利用の問題点や、SNS 上で知り合った人を信じてしまう理由について考え話し合うことを通して、生徒が SNS 利用上の危険を予測するなど、やりとりを行う際に、責任をもって判断しようとする判断力を育てる。

段階	学習活動・内容 ◎主発問 ○補助発問	時間	形態	○指導上の留意点 ☆研究内容との関連 ※評価
導入	1 SNS にはどんな機能があるか、話し合う。	2	全	○SNS を普段利用しない生徒も SNS の機能について理解できるようにする。 ☆生徒の身に起こりうる SNS 上の危険に関する動画を視聴し、短時間での導入を行う。
	2 動画教材を視聴する。(5分程度)	5		
展開	3 動画について考える。	3	全	○動画を視聴した後、どのような内容かを確認することで、全員が話の大体をつかめるようにする。
	4 主人公のひかるさんは、なぜ大学生に会いに行ったのだろう。	9	全	○「行く」「行かない」の考えを数直線上に示すことで、自分の立ち位置を明らかにしていく。さらにそれぞれの理由を問いながら、自分の心の中にも多様な価値観を持っていることに気付かせていく。
	5 主人公のひかるさんは、なぜTシャツをもらいにカフェに行ったのだろう。	9	全	○「行く」「行かない」の考えを数直線上に示すことで、自分の立ち位置を明らかにしていく。さらにそれぞれの理由を問いながら、自分の心の中にも多様な価値観を持っていることに気付かせていく。
	6 アンケートの結果から、これまでの自分の SNS 利用を振り返り、ひかるさんの行動の奥にある思いを考える。 ○ 自分だったら大学生に会いに行っただろうか。また、T シャツをもらいにカフェに行っただろうか。	15	全	○ SNS の機能を使ってどのようなやり取りができるかを考え、自己を見つめる時間を十分に確保する。ワークシートに自分の考えを書く。 ☆ひかるさんの事例や他の生徒の経験などを参考に話し合う。 ※SNS で知り合った人を信じてしまう心理について、自分の考えと友達の考えを比べながら考えている。(観察、発言)
終末	7 本時を振り返り、これまでの自分や生活を見直し、自分の考えを整理する。	7	個	○ワークシートに記入させることで、自分の考えを整理することができるようにする。 ※SNS で知り合った人を信用してしまう人間の弱さに向き合い、善悪の判断についての価値観について考えを深めている。(記述)

檜枝岐中学校 第3学年 道徳科 学習指導案

令和4年11月28日(月) 第5校時

授業テーマ

インターネット上のコミュニケーションにおいて大切なことを考え話し合うことを通して、インターネット利用の場におけるいろいろなもの見方があることを理解し、寛容の心をもち自らを高めていこうとする道徳的判断力を育てる。

1 主題名 相手の気持ちを考える(9 相互理解・寛容)

2 資料名 「言葉の向こうに」(日本文教出版:あすを生きる3)

3 主題設定の理由と資料について

(1) 生徒の実態

(略)

(2) ねらいとする価値について

人には、それぞれ自分のもの見方や考え方があり個性がある。そこで、大切なことは、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することである。他者と全く同じと言うことはない。自分と異なる多佐野立場や考えを尊重する寛容の心を持てば他者を積極的に認めようとするができる。生徒は、インターネットを通じたコミュニケーションにおける情報モラル的な観点での注意点について、学校や家庭など、様々な場で指導されている。そのため、インターネット上のコミュニケーションで、「言葉に注意する」ことなどのマナーは知識として身に付けている。しかし、これらはあくまでインターネット上でのコミュニケーションに限った場合のマナーであり、現実のコミュニケーションと区別されて考えられがちである。

(3) 資料について

「言葉の向こうに」(日本文教出版:あすを生きる3)は、ヨーロッパサッカーのファンである中学生の「私」が、ファンサイトで他のファンたちとやり取りを行う話である。「私」は、ファン仲間との温かな交流や中傷の言葉にむきになって反論して諫められる経験から、字面だけでなく画面の向こうの人々を思い浮かべ相手の気持ちを考えることが大切なのだ気付く。「私」の姿を自分自身と重ね、コミュニケーションについて考え、相互理解、寛容について自己の価値観を見つめ直すために適した教材である。

(4) 指導について

現代においてインターネットは生活に浸透し、なくてはならない存在となっている。インターネットを通じたコミュニケーションを特別な場面として捉えるのではなく、身近なものとして捉えさせたい。

本時は、教材を読み「インターネット上のコミュニケーションにおいて大切なこと」を考え、話し合う。自分の考えをまとめるツールとしてジャムボードを用いることで、自他の価値観や考えの変容を可視化できる。他者との交流の中で、インターネット上のコミュニケーションについて自分なりの考えをもたせたい。さらに、インターネットを介したコミュニケーションでも画面の向こうには生身の人間がいることを改めて想像させるようにしたい。インターネットの特性を踏まえつつ、根底に現実の場面と同じような相手意識をもつことが重要であると気付かせ、相互理解、寛容について自己の価値観を明らかにすることがねらいである。

4 研究内容との関連

- 質の高い多様な指導方法への取り組みについて

視点Ⅰ：①課題意識を持たせる短時間での導入
 視点Ⅱ：③話し合いと発表の場の工夫

「手立て」

- ① 事前に行ったアンケート結果を用いて、短時間で課題について理解させる。
 ③ ジャムボードを用いて、他の生徒の意見を自分の考えに反映させることや、考えの変容を視覚的に示させることを通して、自分なりの考えを構築させる。

5 指導過程

ねらい：インターネット上のコミュニケーションにおいて大切なことを考え話し合うことを通して、いろいろなもの見方や考え方があり、それを尊重することの大切さに気づき、寛容の心を持ち自らを高めようとする道徳的判断力を育む。

段階	学習活動・内容 ◎主発問 ○補助発問	時間	形態	○指導上の留意点 ☆研究内容との関連 ※評価
導入	1 学級の実態から課題をつかむ。 ○ 事前に行ったアンケート結果を紹介する。また、インターネット上のコミュニケーションについての経験について話す。	7	全	○電子メールやSNSなど、アカウントを作成して利用するものや、匿名でのやり取りが可能な掲示板などがあることを確認する。 ☆事前にインターネット上のコミュニケーションに対するイメージについてアンケートを取っておき、結果を配付する。
	2 アンケート結果について紹介する	5	全	
	3 課題を確認する。 ◎ インターネット上のコミュニケーションで大切なことは？	3	全	
展開	4 課題について考える。 (1) おめでとうと入力したとき、なぜうれしく感じたのだろう？	8	個班	○Google Jamboardにより、大切だと思うことほど中央近くに配置するよう指示する。 ☆発表や意見共有の際、他の生徒の意見を確認しながら進める。 ☆後の活動で考えが変わった場合、配置を変えるよう助言する。また、その際軌跡を矢印で示すよう指示する。 ○相手意識に関する質問を投げかけ、生徒の価値観を揺さぶる。 ※インターネット上のコミュニケーションにおけるいろいろな見方や考え方について、自分なりの考えをもっているか。(発表)
	(2) ファンサイトに悪口を書いたとき、どのように感じただろう？	8	個班	
	(3) 意見をもとに、これまでの自分のSNS利用を振り返り、主人公の行動を価値づける。	9	個全	
終末	5 本時相互理解、寛容について、これまでの自分を振り返る。	5	個	○プリントに相互理解、寛容についての考えをまとめさせる。 ※コミュニケーションにおける相手意識の大切さについて気づき、そのことについて考えているか(記述)
	6 「よりよい情報社会へ」を読み、現代的な課題を確認する。	5	全	

6 板書計画・資料

資料内の書き込みを掲示

ジャムボードの画面

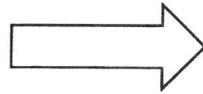
道徳アンケート

名前[]

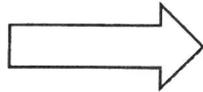
インターネット上でのコミュニケーションについてのイメージを、以下の5つについて、1(全く思わない)・2(少し思う)・3(まあまあ思う)・4(強く思う)で表し、その理由を書いてください。

インターネット上のコミュニケーションは……

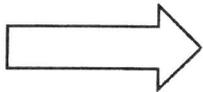
楽しい



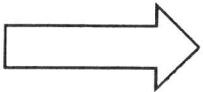
ためになる



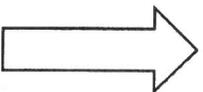
緊張する



イライラする



好きだ



理由
